

大岳救難所の最新鋭 ジェット救助艇が初出動

平成28年11月18日～20日の間、福岡市で開催された「ルイ・ヴィトン・アメリカズカップ・ワールドシリーズ福岡大会」において、公益社団法人福岡県水難救済会大岳救難所に平成28年10月に配属されて以来、出動に備えて慣熟操船訓練を続けていた最新鋭ジェット救助艇「おおたけ2」が、福岡市及び大会実行委員会の要請を受け、満を持していたかの如く福岡海上保安部と連携して海難救助に出動し、早速その性能と訓練の成果を如何なく発揮して3件（絡索2件、乗揚げ1件）の海難救助に大活躍しました。

今回の福岡大会は、2017年6月に開催予定の「第35回アメリカズカップ決勝戦」に向けた予選大会で、アジアでは初めての開催になります。



アメリカズカップ・ワールドシリーズ福岡大会

レーシングヨットの進化が著しく、最高で50ノット近い速度が出るヨットレースであることから、高速航行が可能で救助即応能力の高い「おおたけ2」に要請があったもので、地元関係者の期待に応える見事な活躍ぶりでした。



《海難救助の概要》

絡索事故を起こしたのは、海上でレースを観戦していたヨット（観戦艇）で、自船のアンカー索を警戒船のアンカーラインに絡索させたもので、「おおたけ2」の救助員が、あらかじめ着用していたウェットスーツで水中に入り、状況調査のうえアンカー索を切断し、無事、救助を完了しました。



救助活動を行っている大岳救難所救助員

また、大会最終日の11月20日には、最終レース終了後、帰投しようとしていたプレジャーボート1隻が、近くの浅瀬に乗り上げました。

浅瀬であることから海保の警救艇なども、該船に近づくこともできなかったことから、救助船「おおたけ2」が駆けつけ、無事乗船者を収容し、福岡海上保安部の巡視艇に引き渡しました。

ジェット救助艇「おおたけ2」は、低床浮沈構造で、ウォータージェット推進方式であることから、ガレキ内走行や浅瀬走行も可能な多目的救助艇で、初出動でその性能を如何なく発揮しました。



クルーザーから無事乗船者を収容し、巡視艇に引き渡す「おおたけ2」